

令和 6 年 6 月 6 日現在

機関番号：32698
 研究種目：基盤研究(C)（一般）
 研究期間：2021～2023
 課題番号：21K11013
 研究課題名（和文）急性期病院入院中の認知症高齢者に対する退職看護師のボランティア活動のシステム構築

研究課題名（英文）Creating A System of Volunteer Activity by Retired Nurses for Elderly Patients with Dementia Hospitalized in Acute Care Hospitals

研究代表者
 山本 君子（YAMAMOTO, KIMIKO）
 東京純心大学・看護学部・教授

研究者番号：00622078
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：目的は、急性期病院入院中の認知症高齢者を対象としたボランティア活動のシステム構築開発である。感染予防の知識と急性期病院で経験ある退職看護師に、ボランティアの協力を得た。COVID-19感染症拡大防止対策のもと、ボランティア活動した。急性期病院の退職看護師が、認知機能低下高齢者の傾聴を1日2回3か月間実施し、認知機能低下高齢者の自律神経活動解析を行い、ストレス状況を評価した。自律神経活動は、傾聴後はストレスが緩和傾向にあり、BPSDの出現はなかった。結果は、退職看護師による傾聴はストレスを緩和する有効な方法の一つである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

急性期病院入院中の、認知機能低下高齢者のBPSD悪化を予防するためには、症状の根底にある思いを知ることが大切である。そのためには、身体抑制や行動制限などがなく、安全でゆったりした環境を提供することが必要となる。急性期病院の多くは、緊急性が高い患者対応が優先されるが、看護師不足によって多忙な環境下にある。そのような中で、認知機能低下高齢者のケアをせざるを得ない状況は、認知機能低下高齢者の安全や人権を脅かしている。

認知症サポーターが増え、一般病床の急性期病院で認知症高齢者を支えるための活動を拡大できるような継続支援の仕組みがあれば、身体抑制や行動制限の機会が減少し、BPSDの予防にも繋がる。

研究成果の概要（英文）：The purpose is systems construction development of the volunteer activity for dementia elderly people during hospital hospitalization for the immediate nature period. It got volunteer cooperation to experience nurse retirement that there was at a hospital for infection preventive knowledge and the immediate nature period. I made the cause volunteer activity of preventive measures against COVID-19 infectious disease expansion. The retirement nurse of the hospital carried out the attentive hearing of the cognitive functional decline elderly person twice a day for three months for the immediate nature period and I analyzed the autonomic nerve activity of the recognition functional decline elderly person and evaluated the stress situation. As for the autonomic nerve activity, a mild tendency included stress after the attentive hearing, and there was not the appearance of BPSD. As for the result, the attentive hearing by the retirement nurse is one of the effective methods to relax stress.

研究分野：高齢者看護学

キーワード：退職看護師 高齢者 ボランティア 見守り 話し相手 急性期病院

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

高齢化に伴い認知症高齢者は、2025年に700万人を超えると見込まれている(内閣府)。急性期病院に入院している患者のうち3割に認知症または認知機能低下があり、そのうち5割以上に行動・心理症状(BPSD)がみられることから、安全・安楽な療養生活を送るための看護支援が必要でありその対策は急務と言える。

研究者は急性期病院入院中の認知機能低下した高齢者に対して、認知症サポーターによる傾聴ボランティア活動実践のためのシステムを構築した(基盤研究C)。その結果、認知機能低下した高齢者は、表情が良く笑顔が見られ、気晴らしになり眠くならない、楽しいなどの発言があり効果がみられた。また、病棟看護師は、危険行動がなく、覚醒を促すことができた、車いすに移動できた、座位で過ごすことができたなどの効果があったと述べていた。このことから急性期病院入院中の認知機能低下した高齢者に傾聴する人が必要であるということが示唆された。一方で、認知症サポーターによる傾聴ボランティア後のインタビューからは、急性期病院という特殊な環境における傾聴と捉えていることがわかった。そのため、想定以上にエイジズムや認知症を意識し、緊張感を高めてしまうこと、また、病院に入院していることで認知機能低下した高齢者の傷病についても想像以上に意識し不安を増長していることもわかった。そこで、基本的な医療知識を持ち患者の経過を理解できる退職看護師を活用することでこの課題を解決できるのではないかと考えた。また、COVID-19の感染拡大対策として通常のボランティアは訪問制限が実施されているが、医療従事者としてスタンダードプリコーションの知識と技能を身に付けている退職看護師は適任と考える。

本研究では、急性期病院に入院中の高齢者の「見守り」や「話し相手」としての認知症サポーターとして退職看護師を活用した傾聴ボランティアを投入し、更なる効果の実証を重ねる。

2. 研究の目的

今までに取り組みされていない、急性期病院に入院中の認知機能低下した高齢者に対して退職看護師による認知症サポーターとしてのボランティア活動を実施し、その効果を療養の場における認知症高齢者の随伴症状である不穏や妄想などの行動・心理症状(BPSD)状況を通して検証する。

3. 研究の方法

令和4年度

	山本君子(研究代表者)	塚本都子(研究分担者)	平川美和子(研究分担者)
	東京純心大学 教授	東京純心大学 教授	帝京平成大学 教授
アクション前	*研究倫理申請書類作成 1. 退職看護師ボランティア募集 2. 急性期病院見学・病棟看護師への協力依頼 3. 調査内容・調査方法の検討 4. 急性期病院の看護師への質問紙作成・データ管理・分析方法 ・入力業者選定・委託	*研究倫理申請書類作成 3. 調査内容・調査方法の検討 4. 急性期病院看護師への質問紙作成 データ管理・分析方法 ・入力業者選定・委託	*研究倫理申請書類作成 3. 調査内容・調査方法の検討 4. 急性期病院看護師への質問紙作成 データ管理・分析方法 ・入力業者選定・委託
アクション実施	1. 急性期病院施設長への研究協力依頼(郵送) 2. 施設の看護職への調査協力依頼(個別調査紙の配付) 3. データ管理・入力業者委託・分析・考察 4. ボランティアの振り返り(インタビュ	3. データ分析・考察 4. ボランティアの振り返り(インタビュー)、病棟看護師インタビューまたはアンケート 5. 関連学会への投稿計画	3. データ分析・考察 4. ボランティアの振り返り(インタビュー)、病棟看護師インタビューまたはアンケート 5. 関連学会への投稿計画

	ユー)、病棟看護師インタビュー またはアンケート 5. 関連学会への投稿 計画		
--	---	--	--

令和5年度以降

実施後	山本君子(研究代表者)	塚本都子(研究分担者)	平川美和子(研究分担者)
	東京純心大学 教授	東京純心大学 教授	帝京平成大学 教授
	データ分析 学会発表・論文投稿 報告書作成・報告	データ管理・データ分析 学会発表・論文投稿 報告書作成・報告	データ分析 学会発表・論文投稿 報告書作成・報告

4. 研究成果

急性期病院入院中の認知症高齢者を対象としたボランティア活動のシステム構築の開発に向けて取り組んでいる。平成30年度～令和2年度は、急性期病院入院中の認知症高齢者を対象とした認知症サポーターによる見守りと話し相手の介入を実施した。その結果、ボランティア活動は、やりがいを感じている反面、急性期病院という特殊な環境における見守りと話し相手であることから想定以上にエイジズムや認知症を意識し、緊張感を高めてしまうことが明らかになった。また、急性期病院に入院していることで、認知症高齢者の傷病について想像以上に意識し、不安が増長していることも明らかになった。これらの結果を踏まえ、令和3年度～令和5年度は、新型コロナウイルス感染症予防の基本的な医療知識や認知症高齢者への対応が可能な研修や認定資格を持つ退職後看護師によるボランティア活動を実施した。

研究の協力が得られた11名の退職後看護師によるアクション手法を用いて、急性期病院に入院中の認知症高齢者への見守りや話し相手のボランティア活動を令和4年12月～令和5年1月の2か月間介入した。急性期A病院の看護部長の協力のもと病棟師長に認知機能低下した高齢者を選定してもらい、1日3名～5名で、午前10:00～午後15:00～の2回、見守りと話し相手を、40分～60分間実施した。ボランティア活動終了後、インタビューガイドを参考に、60分程度の半構造化グループインタビューを実施した。

退職した看護師によるボランティア活動による結果は、見守りや話し相手のボランティア活動により「患者への安心感を与える」ことを実感し、「ボランティアの必要性」が改めて理解できた。また、「初めての患者との会話の難しさ」を感じ、「患者の背景をとらえる」ことにより「患者の個性への関わり」が可能なるため患者の情報収集の機会を設けることも必要であると考えていた。ボランティア活動を体験したことにより、「自分自身の特性認識」を発見することとなり、自己を振り返ることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 平川美和子、山本君子、山内真紀子、塚本都子、柏崎信子、杉原ひとみ
2. 発表標題 NURSE'S PERCEPTIONS REGARDING THE USE OF VOLUNTEERS FOR ELDERLY PEOPLE WITH DEMENTIA IN JAPANESE ACUTE CARE HOSPITALS
3. 学会等名 EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS 24t (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 平川美和子、山本君子、山内真紀子、塚本都子
2. 発表標題 一般病院看護師の職位別にみる認知症対処困難感の相違
3. 学会等名 第27回老年看護学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Miwako HIRAKAWA, Makiko Yamauchi, Kimiko Yamamoto, Miyako Tsukamoto
2. 発表標題 Effects of Listening Activities of Volunteer Retired Nurses on The Elderly Hospitalized in Acute Care Hospitals: Evaluation of Autonomic Nervous System
3. 学会等名 12th Asian Society of Human Services Congress (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 平川美和子、山内真紀子、山本君子、塚本都子
2. 発表標題 入院中の認知機能低下高齢者に話し相手が必要だと看護師が思う場面の分析-感染症パンデミック前後の比較-
3. 学会等名 日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	平川 美和子 (HIRAKAWA Miwako) (50775244)	弘前医療福祉大学・保健学部・教授 (31107)	
研究 分担者	塚本 都子 (Tsukamoto Miyako) (90639684)	東京純心大学・看護学部・教授 (32698)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------